

平成 26 年 6 月 18 日現在

機関番号：32617

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2010～2013

課題番号：22520828

研究課題名(和文) 沖縄久米島の家系資料群の研究

研究課題名(英文) The Study on the materials of genealogical documents in Kumejima ,Okinawa prefecture

研究代表者

小川 順敬 (OGAWA, Toshiyuki)

駒澤大学・総合教育研究部・准教授

研究者番号：00338302

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,300,000円、(間接経費) 990,000円

研究成果の概要(和文)：本研究の目的は、沖縄県の久米島で18世紀半ばから約100年ごとに編纂されてきた家系資料を収集・整理し目録化を行い、それぞれの成立の背景や特色について考察することにある。  
また、それぞれの家系資料群に記載された内容から、久米島の一族意識や継承関係を明らかにし、加えて久米島における歴史史料としての家系資料の意義について考察した。

研究成果の概要(英文)：The purpose of this study is to collect the family's genealogical document materials which have been edited in Kumejima of Okinawa prefecture every approximately 100 years from the mid-18th century, and to organize and to make the list of the materials.

In addition, I clarified whole families awareness and succession relations of Kumejima that expressed in a series of family documents and I added it and considered the significance of the family document as historical materials in Kumejima.

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：文化人類学・民俗学

キーワード：沖縄研究 久米島研究 家譜 位牌祭祀

## 1. 研究開始当初の背景

先の大戦で大きな戦火を被った沖縄では、現存する文書資料が極めて少なく、民俗学・歴史学研究上の大きな障害となっている。ところが、地上戦による戦火を免れた久米島では、県内他地域とは比較にならないほど多くの文書が残っており、そのため、1979～1981年度には法政大学、1999～2001年度には京都大学による、科学研究費補助金調査が行われ、それぞれ数百点に亘る文書史料が発見・紹介された。その中には、数点の18世紀家譜が含まれているが、これら家譜には18世紀半ばの乾隆期に成立して以降の記載がなく、家系に関してもその時代を下限として家系情報は切れている。

研究代表者は、1979年以降久米島の村落調査を行い、18世紀以降も様々な家系資料が作成、残存していることを知り得た。家譜成立後、およそ100年を経た19世紀中頃に、家譜の修譜をおこなった家系では父母記が作成され、また家譜を有していない分家などは新たに家譜を作成している。その後100年を経た20世紀中頃には、家譜や父母記を基礎資料として、位牌や骨瓶の記録などの調査結果を加えた家系資料群(以下総ての家系資料を「資料群」とする)が作成されている。

ところが、19世紀以降の資料群を含めた、久米島家譜の総合的研究はこれまで全く行われておらず、代表者自身、家の継承、養子関係、婚姻関係、また久米島の神女(君南風)継承のありかたを一部の家譜、父母記を対象として検討したのみである(『君南風職の継承について』『宗教学論集』第12輯 昭和60年、「久米島の家譜にみる家の継承と養取」『駒沢大学・文化』12号 平成元年、「久米島の家譜にみる婚姻」『駒沢大学・文化』13号 平成2年)。また、資料群によって、久米島地方役人階層の一部の系統は世代深度最大400年に亘って具体的に系統をたどることができる。実際、研究代表者は資料群を用い久米島の一字誌に複数系統の初代から現代に亘る系図を依頼されて、約60図を作成し提供している(『西銘誌』2003年)。こうしたことが可能となったのも、家系に関する様々な資料が残されていたからであるが、久米島では戦火を免れた結果、屋敷割りも古い位牌もそのままに残され、それによって資料群の内容の確認を取ることができたからである。

研究代表者が収集した資料群は、法政大学・京都大学による調査から漏れ、未だ報告すらされていない資料が大部分である。18世紀の家譜資料の場合、写本も含め数点が未公開、19世紀の家譜、父母記なども約10点が、20世紀の資料はほぼすべてが未公開である。

また、いまだに未収集の家系資料も多く存在すると考えられるところから、早急な調査及び収集を行う必要があると考えられる。

ところで、本研究の表題に「家系資料群」とあらわしたのは、家譜や父母記と言った所

謂系図資料ばかりではなく、上記に言及した位牌、あるいは骨壺の銘書なども含む、広い意味での「家系資料」を一つの対象として考えようとしたからである。本研究は家系資料を総合的に対象としようとしている点に特色があるといえるが、こうした調査は、久米島においてこうした可能となったとも言える。

さて、家系資料群には、一族ごとに特定の家系資料制作者達を推定することができる。自らの一族の家系情報を調査収集し、家系資料を制作したグループの存在が考えられるのである。特に、18世紀、19世紀成立の家譜類について言えば、こうした家譜制作者は地方役人としてトレーニングを積むために、首里の士族、王族家系に「奉公」にあがり、そこで読み書き能力や地方政治の指導力などの教育を受け、首里・那覇の文化を地方にもたらした、いわば「地方知識人」達である。家譜類を作成した地域のリーダーたる地方知識人のあり方も、ここから見えて来る可能性がある。

最後に、資料群は、沖縄研究の他分野への利用も期待できる。特に19世紀までの家譜には記載される人物の任官が詳細に記されており、地方役人の任官システムを具体的に明らかにできる可能性がある。また、家系継承のあり方を地方役人の任官から再検討する必要もある。たとえば、18世紀家譜には長男分家や分家からの本家継承の事例が数例認められる。このような家系継承の事例を、単に出自による継承システムから説明するのではなく、特定の役職に就いた者が当該系統の本家継承に優先される様な、族制システムからでは説明できない問題を一部明らかにすることができるかもしれない。

このような資料は、民俗学、歴史学等多くの分野に亘って利用出来る資料であり、まずは一括して久米島博物館等の機関で保管し、公開可能な資料は広く利用出来る環境を整える必要があると考える。久米島博物館にデータとして保管し広く学術研究に利用出来る必要があると考えられたのである。

## 2. 研究の目的

さて、以上のような背景のもと、本研究が目指したのは次の問題である。

まず1点目として、沖縄県久米島で18世紀中頃、19世紀中頃、20世紀中頃と100年ごとに作成されてきた地方役人階層の複数の親族系統に残される家譜、父母記、家系の備忘録、位牌記録、年回忌記録、骨瓶記録など、未公開の家系資料群の整理・検討・目録化を行う事にある。また、家系資料群、特に、家譜、父母記類には、地方役人の任官、勲功、治水管理、その他様々な社会史的記録も記載されている。今後、歴史学や民俗学・文化人類学、また他分野からの研究・利用のために、こうした資料群を利用出来る環境を整えることにある。

2 番目には、家系資料群の記述内容を歴史的に追い、それぞれの時代で成立した家系資料の特徴を明らかにすることである。

特に 18 世紀家譜の成立については久米島の旧具志川間切（旧具志川村）には、久米具志川間切系図目録帳という 18 世紀成立家譜の目録が残されているが、その家譜の同定作業である。19 世紀、20 世紀の家系資料についても、それぞれ成立、記述の特徴などについて検討を加えた。また位牌祭祀から読み取れる問題についても検討の対象とした。

### 3. 研究の方法

家系資料群のうち文書資料については 100 年毎に 3 期に分けられることから、本研究でもこれに対応して考えることにした。

18 世紀の家譜史料は、すでに法政大学久米島調査報告書である『沖縄久米島資料編』弘文堂、京都大学久米島調査『前近代久米島文化の復元』また、久米島町字西銘『西銘誌』その他に翻刻紹介されているものもある。上記の家譜の中には異本のあるものがあったり、研究代表者がコピー・写真等で保管している未公開の家譜類には明治期以降の写本であったりするものもある。家譜資料の整理は、京都大学の久米島調査で家譜の整理を行った経験のある分担研究者の下郡剛氏（沖縄工業高等専門学校准教授）が専門の歴史学の立場から主に担当する。

19 世紀の家系資料類は、家譜、父母記、家記、過去帳など種類が多い。またその内容も家譜の体裁を整えているものから、単に個人の生没年のみが記載されているもの、個人の任官、久米島の歴史的な出来事等が記載されているもの、また家の経営という観点からの家訓が述べられているものなど内容も多様である。この家系資料群の整理は代表者と分担者がそれぞれの立場から協力して行うが、内容が多岐に亘るため、この時代の家系資料は研究協力者の上江洲均氏（久米島自然文化センター名誉館長）に検討を依頼する。上江洲均氏は、久米島出身であり、すでに 19 世紀成立の一系統の父母記、家記など数点を翻刻紹介されている。研究代表者が収集した他系統の家系資料などとともに改めて検討を加える。

20 世紀の家系資料は、今回の資料の中で最も分量が多い。その大半が久米島出身の宮城保憲氏が調査・収集・作成されたものである（以下宮城資料）。これとは別にいくつかの家系資料が数名によって作成されており、系譜観を考察する上では興味深い資料であるが、資料整理を行う必要があるのは、宮城資料である。宮城資料は、過去の家譜類、父母記類などの筆写ノート・各家の系図メモ・骨瓶記録・位牌調査メモなど多岐に亘っている。そして、そうした資料を用いつつ宮城氏自身が作成した二十数冊の家譜下書きがある。特にメモ資料類には家譜と位牌、骨瓶記録の記載の違いなどが記されているものが

あり、従って 18 世紀、19 世紀成立の家系資料を検証する際に用いる必要が認められる。

以上の通り、20 世紀の資料類は研究代表者が主に責任を持って整理・検討することになる。

なお、資料群のうち、研究代表者が把握し収集しているのは主に久米島の旧具志川村（間切）の資料群であり、旧仲里村（間切）はごく一部である。また未収集資料もあると推定されることから、系満市役所（当時）の金城善氏を研究協力者に迎え主に仲里村（間切）の新資料収集を依頼した。

また、位牌や骨瓶銘書の調査に関しては調査組織全体としてこれを行うことにした。位牌は特定の時代に限られた資料ではなくそれぞれの立場で研究に利用可能な資料として位置づけられるからである。

### 4. 研究成果

本研究の研究成果について 2 点に分けて説明したい。

1 点目は資料収集結果についてであり、2 点目は資料を用いた研究結果についてである。

(1) 本研究によって収集・整理された家系資料群は次の通りである。

まず、収集資料の内、18 世紀乾隆年間に編纂された家譜についてである。18 世紀乾隆年間編纂家譜は 18 件あった。このうち、大正昭和期迄の写本 10 本含め総点数は 28 点であった。18 件中 12 もしくは 13 件（12 もしくは 13 点）が乾隆期成立と考えられるが、いまま少し検討が必要とされる。また 10 点が今回調査によって発見されたものである。家譜の原本の内 3 点が久米島博物館に寄託・寄贈される事となった。今後数年以内に修復等の処置が博物館によって行われる予定である。なお、18 件の家譜の内、所有者不明、及び所有権の係争中のものが 5 件あり、これら資料については継続して所有者確定等の作業を継続することとした。また所在が判明しているものの閲覧確認出来なかったものが 1 件あった。この資料については、交渉の結果、閲覧が許される見込みである。

次に、19 世紀成立の家系資料にいては、総点数で 26 点であった。19 世紀成立の家系資料は、家譜ではなく、主に父母記などの家系記録が主体となり、家譜体裁の資料は 3 点ほどを数えるに過ぎない。その他、焼香日記、勲功書、過去帳、家記など、名称も内容も多彩であるが、家系の記録とともに、位牌の記録、家の経営・家訓など、家系の備忘録と言ってよい内容である。重要なことは、あくまで形式は 18 世紀家譜の記述方法

に従いつつ、現状の継承関係を記録しつつも、血筋家筋の変更など、例外的な継承関係についてはその記載を曖昧にしている。家系の名乗り文字の変更、位牌の移動などについても、変更点については記述しない場合が多い。

20世紀の家系資料については、総点数75点であった。このうち、家譜は25点。その他50点はメモ資料である。メモ資料については、雑多な内容を含むもの106点であったため、研究代表が家系毎の整理を行い、50点にまとめたものである。

以上、家系資料については、18世紀・19世紀成立の家譜資料が54点（デジタル写真27点・734枚、PDFデータ27点833頁）として整理した。

20世紀家系資料については、家譜25点・PDFデータ1273頁、メモ資料50点・PDF106枚として整理した。

これらは、家譜等資料については1点につき1枚のCDに格納し、メモ資料については、後述の久米島の2系統の親族組織毎にCDに納めて、久米島博物館に寄贈した。

なお、資料の公開については、基本的に久米島博物館の規定に従うことになった。

ただし、以上の点で注意すべき事が一点ある。それはこの資料が親族資料であり、個人のプライバシーに関わる情報が記載されている点である。

結果からいえば、20世紀成立の資料については、一般公開（制限無しの公開）は無理と判断した。もっとも、博物館での資料閲覧は不可とされているが、この資料はそれぞれ、久米島の大きな2つの親族組織（美濟氏、大史氏）に関して記述されたデータであり、この2つの親族団体に印刷物、原本など、基本的には印刷物ベースで20世紀の資料を提供している。

これら資料の研究利用に関しては、この組織へ閲覧依頼を行うことによって閲覧は可能となるものと思われる。

また、18世紀、19世紀の資料についての閲覧もほぼ同様であるが、すでに一部翻刻印刷出版されていたりする場合があり、そうしたものについては閲覧可能となる。しかし、一部、非公開扱いを希望されている資料がある。

なお、位牌資料・銘書資料については、デジタル写真で資料収集を行ったが、いずれも非公開扱いとなった。一部家系では、20世紀の家譜資料にデータとして記載されているが、プライバシーの観点から、いずれも学術調査であっても公開は見送ることとした。

- (2) 家系資料群そのものの検討については様々な問題があり、今回はそのいくつかの問題にアプローチを試みた。

乾隆期に作成され、王府へ提出し士分を願った家譜は久米島休具志川間切(村)では18冊とされている。乾隆24(1759)年に成立した久米具志川間切系図目録帳にその18冊の家譜が記されており、当時作成された家系等が記されている。この18冊が現状で残されている18世紀家譜と対応しているのかはほぼ判明出来た。ただし、仲里間切の家譜については数冊が確認出来ただけで全体数ほか不明点の多くが課題として残った。19世紀の家系資料は、18世紀家譜に継ぎ足しが行われず、家系情報が切れているために新たにまとめる必要性が生じたと考えられる。しかし、この理由についてはよくわかっていない。ただし、明治期戸籍編成に合わせて士分への改めでの取り立て（戸籍身分欄）を願ったという話が具志川村には伝わっており、こうした意識が家系資料作成に向かわせた可能性はあると考えられる。また、仲里村側の資料は全く確認出来なかった。

20世紀の家系資料は、それまでの家系資料が家筋中心の記述だけであったものが、血筋による親族関係もたどることが出来る記述を併記している。たとえば養子の生家の系統を記述し、生家と養家の関係をたどることが出来るようになってきている。過去の家系にも遡って家筋と血筋の関係を明確にして家系を再編成しようとして試みていると言えよう。

家系資料のうち、位牌から明らかに出来る事は、養取などによる所属一族の変更である。19世紀までの家譜など家系資料には、所属する一族の変更が行われたという記述は見当たらない。一方、位牌には所属一族の変更、あるいは位牌の移動（男系血筋への位牌の移動、骨の移動）を確認出来る。系統の異なる（タチー）間での養取の事例は、18世紀から確認出来るものの、家譜等には所属一族の変更が行われたとは記されていない。しかしながら、19世紀末以降の位牌祭祀を見ると異系統間での養取が系統の変更を帰結する事例が散見する。血筋を重視する傾向が見られるようになったといえる。

最後に、久米島の歴史資料としての家系資料群という特徴について述べておきたい。

久米島には、旧王府時代から「間切旧記」などの島の郷土誌資料の材料として、家譜等家系資料が用いられてきた可能性がある。これは19世紀以降の以降も同様で、計画だけに終わった大正年間の

沖縄県史編纂の基本資料として作成された「久米島郷土誌」(沖縄県立博物館デジタル資料)にも、様々な家譜・家系資料からデータを引用している。

また、久米島の君南風(久米島全島の司祭者)の継承関係についても家譜資料を基にして再構成している。そのほか、久米島島内の治水灌漑整備の歴史も家譜資料から再構成しようと試みていた。

以上の通り、久米島の家系資料は、単に親族・一族関係の実態を明らかにするばかりではなく、歴史資料として用いられる可能性がある。しかしながら、こうした資料を島の郷土誌・歴史を再構成するための資料として、久米島島内ですでに用いられてきたという点も重要である。

#### 5. 主な発表論文等

[雑誌論文](計3件)

— 下郡 剛、乾隆二十四年作成の久米島具志川間切家譜、日本歴史、査読有、778号、2013、34 - 49

— 小川 順敬、「君南風代数概記」の紹介と検討、宗教学論集(駒沢宗教学研究会)査読有、31 輯、2012、

— 下郡 剛、旧首里士族・照屋家の祖先系譜の復元 - 厨子甕銘書の検討を通して -、宗教学論集(駒沢宗教学研究会)査読有、30 輯、2011、79 - 99

[学会発表](計12件)

— 小川 順敬・下郡 剛・上江洲 均・金城 善、位牌と記録から見たわが家と久米島の歴史(パネル発表)久米島博物館、2013年5月25日・26日

— 小川 順敬、宮城保憲氏の資料について、久米島の家系資料群の研究(中間報告)西銘公民館(久米島町)2013年5月25日

— 上江洲 均 祖先祭祀と位牌、久米島の家系資料群の研究(中間報告)西銘公民館(久米島町)2013年5月25日

— 下郡 剛、久米島の家譜について、久米島の家系資料群の研究(中間報告)西銘公民館(久米島町)2013年5月25日

— 金城 善、仲里間切の位牌と記録、久米島の家系資料群の研究(中間報告)西銘公民館(久米島町)2013年5月25日

— 小川 順敬、位牌と記録から見たわが家と久米島の歴史 - 久米島の家系資料群の研究 - (講演会:久米島老連クラブ連合

会) 具志川改善センター、2013年5月27日

— 小川 順敬、はじめに - この調査の目的、久米島の家系資料群の研究報告会(久米島博物館と共催)久米島博物館、2013年9月7日

— 小川 順敬、19世紀の家系記録について、久米島の家系資料群の研究報告会(久米島博物館と共催)久米島博物館、2013年9月7日

— 上江洲 均、久米島における家譜編纂の始まり、久米島の家系資料群の研究報告会(久米島博物館と共催)久米島博物館、2013年9月7日

— 下郡 剛、乾隆二十四年作成の久米島家譜について、久米島の家系資料群の研究報告会(久米島博物館と共催)久米島博物館、2013年9月7日

— 上江洲 均、久米島の家譜成立について、久米島の家系資料群の研究報告会(美済氏会と共催)那覇教育会館、2013年11月24日

— 下郡 剛、久米具志川間切家譜一八冊の筆跡について、久米島の家系資料群の研究報告会(美済氏会と共催)那覇教育会館、2013年11月24日

[図書](計1件)

上江洲 均(沖縄県教育庁文化財課) 沖縄県教育委員会、沖縄の葬制に関する総合調査報告書、2013、373-382

#### 6. 研究組織

(1)研究代表者

小川 順敬(OGAWA, Toshiyuki)  
駒澤大学・総合教育研究部・准教授  
研究者番号: 00338302

(2)研究分担者

下郡 剛(SHIMOGOORI, Takeshi)  
沖縄工業高等専門学校・総合学科・准教授  
研究者番号: 50413886

(4)研究協力者

上江洲 均(UEZU, Hitoshi)  
久米島博物館・名誉館長

金城 善(KINJOH, Masaru)  
糸満市市役所(当時)